

長谷川 美貴 ほか 著
(理工学部化学・生命科学科准教授)

『Lamb 教授の英語ライブで学ぶ—
Let's Start ケミストリー』

三共出版 2009年11月刊 2,520円

〔評者〕大 場 正 昭



本書は、Brigham Young 大学 (USA) の John D. Lamb 教授の講義 (Chem Tutor II) を CD で体験し、基礎化学と化学英語のリスニングとリーディングを学ぶ、という内容となっている。以下、書評と言うよりは、実際に使用した私の感想を書かせてもらおう。パソコンに CD を入れると、面倒な操作なくブラウザ上でビデオの再生が始まる。Lamb 教授のネイティブで聞き取りやすい英語の講義が展開され、それに合わせてスライドのアニメーションが表示されていく。講義は全 20 章からなり、原子と分子から始まり、化学反応式、ボーアの原子モデルから、化学結合、分子構造、pH、熱など、入門化学に最適な内容が収録されている。講義は各章が 15 分ほどで終わるので、集中して見る (聞く) ことができ、何度も繰り返し見るにも勝手が良い。例えば、第 1 章「原子と分子」では、原子の構造から始まり、原子番号、原子質量、モルの概念、などが講義されて、周期表に至る。要所で表示されるスライドがとても分かりやすく、視覚的に優れているだけでなく、その構成に感心させられる。講義のスタイルは、単に教授が話すだけでなく、時には学生との対話形式であったり、例題を解かせたり、アニメーションを多用したりと、内容に合わせた飽きない構成となっている。例えば、執筆者の 1 人の長谷川美貴先生が担当さ

れている第 15 章「分子構造」では、 CO_2 の直線構造や BF_3 の平面三角形構造が、カラフルな風船を使って分かりやすい映像で示されており、分子構造への孤立電子対の影響の理解を深めることができる。

一方、本文には各章のポイント、キーワードとフレーズが分かりやすくまとめてあり、さらに関連したオリジナルのトピックスが加えられていて、本書だけでも十分に読み応えのある内容になっている。講義も本文も、読者の視点からとても使いやすく作り込まれているため、「化学と英語を同時に学ぶ」という欲張りな内容が見事に調和して機能している。私は先に講義を聞いて、後から本文を読んで内容を確認したが、その逆もよし、本文を見ながら講義を聞くもよし、習熟度に合わせてマイペースで自由なスタイルで読める (聞ける) のも本書の特長である。

本書は、学部生向けの化学入門書としての良書にとどまらず、英語プレゼンテーションの技術習得のための教材としても活用できる内容である。また、大学で講義をする教官にとっても、本書と講義の内容と構成は、化学教育に大変参考になるもので、単なる化学英語の参考書とは一線を画する内容となっている。

是非、ご一読をお勧めします。

(九州大学大学院理学研究院化学部門教授)